

神楽通信

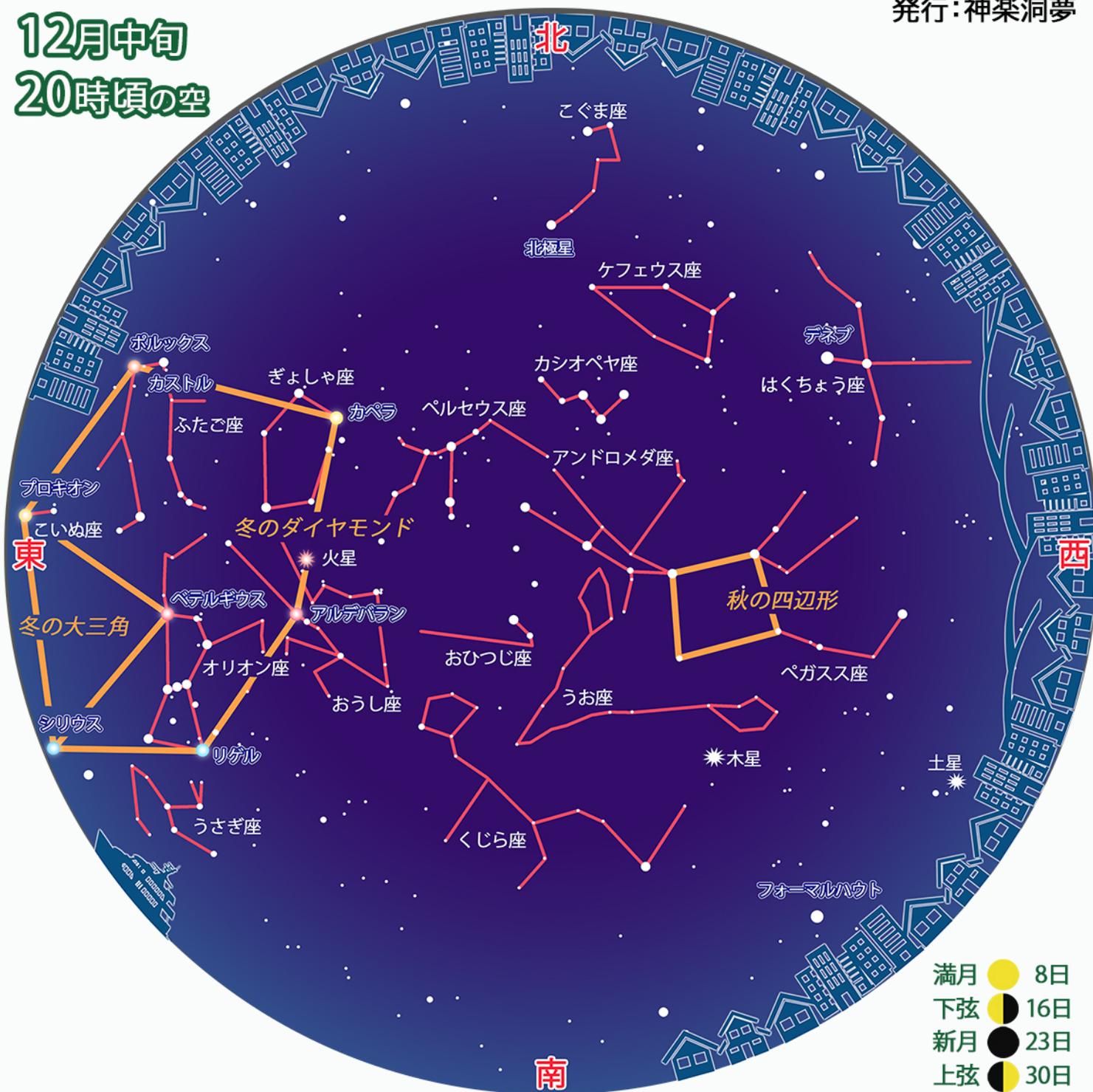
No.82

2022年

12月号

発行:神楽洞夢

12月中旬
20時頃の空



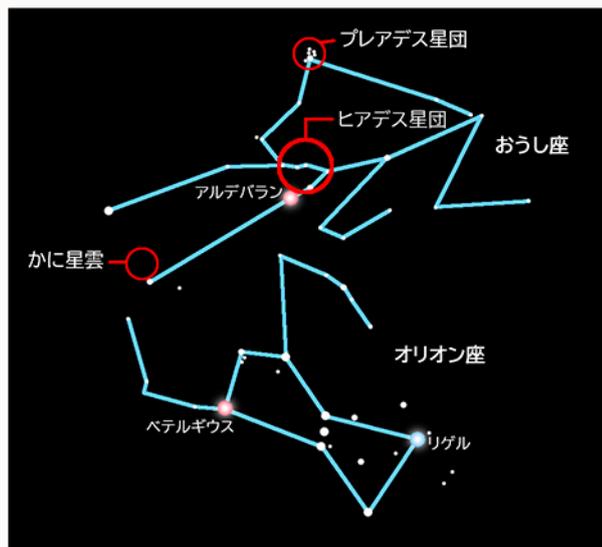
12月は22日に冬至となり、1年で最も夜の長い1か月になります。星空も長い時間見られますね。冬の空には、明るい冬の大三角が輝いています。おおいぬ座のシリウス、オリオン座のベテルギウス、こいぬ座のプロキオンと、南東の空に三つの1等星をつなげば、冬の大三角の出来上がりです。夏の大三角とは違い、赤・白・黄色とカラフルな三角形が描けます。風邪をひかないように気を付けて、冬の夜空を楽しみましょう！！

冬はすばる

冬になると賑やかな星空をむかえますが、そのなかでも世界中に多くの神話や伝説が残る人気の天体がおうし座の「プレアデス星団(すばる)」です。

プレアデス星団は、オリオン座の三ツ星を上のにのぼすと見つけられ、おうし座の肩の部分にあります。清少納言の『枕草子』でも「星はすばる〜」(星はすばるが良い。)と紹介され、昔から知られている星団ですが、その実態は120個ほどの星の集団であり、肉眼でも6〜7個ほどの星を数えることができます。双眼鏡や望遠鏡を使えば、よりたくさんの星の群れとして見るすることができます。

おうし座はプレアデス星団の他にもう一つ肉眼で見られる星団をもっています。それが「ヒアデス星団」です。ヒアデス星団は、おうしの右目にあたるアルデバランの周辺の星をアルファベットのVの字につないだ辺りにあります。



プレアデス星団
(画像:国立天文台)



ヒアデス星団
(画像:国立天文台)

おうし座に星の一生をみる

プレアデス星団は生まれて間もない若い星の集まりですが、おうし座には星の終焉を見ることもできます。それが「かに星雲」です。

おうしの角先部分に存在します。

かに星雲は恒星がその生涯の最期に起こす大爆発「超新星爆発」の残骸で、その爆発はまだ膨張を続けています。爆発で飛び散ったガスや塵などの恒星をつくっている元素は星間雲となって宇宙空間を漂います。その後、自己重力で収縮して新しい星ができ、やがてその周りに惑星系がつくられます。わたしたちの太陽もそのようにできたと考えられており、おうし座ではこのような星々の一生の様々な姿を見ることができます。今年の冬はおうし座の美しい天体を探しながら、星の一生に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

それでは、よいお年をお過ごしください。



かに星雲
(画像:NASA&ESA)

